



◎丹羽内務省道路課長の外遊

本會の幹事である内務省道路課長丹羽七郎氏は、今回官命に依つて歐米各國へ出張さるゝことゝ爲り、來る九月十日四日横濱出帆の箱根丸で渡歐せらるゝ筈である、道路課長在職僅に一年であるが、此短期間は随分多忙なときであつた、内閣が交迭して財政緊縮政策を採り大正八年以來毎年繼續して來た道路改良費を全部否認すると言ふ有様で、新事業を計畫するどころか従前の計畫維持に狂奔せなければならぬ時であつた、道路改良事業の如き其の効果が普遍的に波及するものは、河川や港灣の改良と異つて其の豫算を維持するのに有力な後援がないから事務官が極力之を維

持せなければならぬと言つて日夜奔走したのは氏と現社會局長官長岡氏であつた、本年度以降道路改良費豫算が兎も角三百五十萬圓を限度として、是認されるに至つたのは兩氏の功勞に歸せねばならぬ、其の一半の功勞者は丹羽氏である。

氏は國道國庫補助政策に反對する人で、實質的に道路の價値を觀て國家的見地より必要なるものについては道路の階級如何を問はず國家自らその費用を負擔するが如き交通政策を定むべきであると主張して居る、此點には俄に賛成することは出来ないが確に一つの眞理である、此見地からして晩近發達した自動車交通の爲に國道と言はず府縣道と言はず主要な地方道路を改良することが刻下の緊急事であつて、之を度外視して道路政策を行はむとするのは大なる短見であると言ふのが氏の持論であつた、果せるかな氏は自動車道路改良案を計畫して其の豫算を大藏省に送付するまでに漕ぎ附けたのである。

財政緊縮方針を採つて居る現内閣の下で新事業を計畫す

ることは、上司の御機嫌を損するので大抵の人は躊躇するのであるが、左様なことには一向頓着せないうで之を立案した、固より堀切土木局長の英断に依つて實現の途に就いたと言ふものゝ、局長をして此處までに決心せしむるに至つたのは丹羽氏の功績である。

記者は一日内務省に君を訪ふて自動車道路案の成行を聞いたが、相當調査を進捗せしめて議會へ通過したなら直に實現することが出来るのであるが、財務當局が之を容るゝや否や懸念に堪へない、豈夫世論に反した査定も出来ないうぢやないか、唯だ後始末を附けなくて故國を去るのは惜しいやうな氣持もする、彼の地では自動車専用道路の視察と調査をしたいと言つて居た。

吾人は氏の歸朝するまでに自動車道路を造つて、君をして隔世の感あらしめたい、そしてその時は又君をして自動車専用道路の立案を爲さしめたいのである、希くは體を大切に於て大任を果たし新智識を持つて歸つて貰いたい、之が吾人に對する最大の土産である。(た)

◎本會理事會開催

本月四日午前十一時より丸の内永樂俱樂部に於て、理事會を開き、水野會長を始め、山田、松木、堀切、長岡、比田、中川、村井、島の各理事、丹羽、牧野、田中、佐藤、岩澤、郡筑、平山の各幹事出席した、劈頭田中幹事より去る六月北海道に於て執行した道路改良宣傳講演會の概況を報告し、次で當日の議題である

一 北海道道路改良事業促進に關する件

一 調査部に於ける調査事項決定の件

の結果、北海道に於ける道路改良事業の促進は、拓殖上極めて重要な關係を有するのみならず其の實行を急務とする現狀であるから、第二期拓殖計畫の樹立を見むとする今日其の促進の方策を講ずるのは、本會として機宜に適した措置と認め此際内務、大藏兩大臣に此が建議書を、又其の具體的事項に付ては本會調査部に於て急速研究の上北海道廳

長官に意見書を提出することに決定した。調査部に於ける調査事項に付ては原案通り可決し、其の各部門の擔任委員は會長に於て指名することに決定した。最後に堀切理事より大正十五年度道路改良費豫算要求案及新規計畫に屬する自動車道路改良事業案の樹立及此の經過に關し紹介する所があつて午後一時會を閉じた。(枝川生)

◎箱根國道開通式

去る七月十一日午前十一時三十分箱根宮の下富士屋ホテルに於いて箱根一號國道復舊開通式が舉行せられた、箱根國道の改築は大正九年以來國庫の補助を得て神奈川、靜岡兩縣知事起業者となつて執行し靜岡縣管内は曩に竣成し、神奈川縣管内は八分通り出來上つた時にかの大正十二年九月の大地震に遭ひ著しく損壞し道路が全く埋没してしまつた個所もあり一時交通吐絶の状態に陥つてしまつた、神奈川縣に於ては直ちに先づ應急的施設を爲し次で翌大正十三年八月復舊工事に着手したのであつたが今や工程滞なく進

捗し遂に開通式を擧げるに至つたのである、其の工事區間は湯本村より箱根町靜岡縣界に至る延長八千六百七十九間、幅員平均三間半、工費金八十八萬圓、内國庫助金七十四萬八千圓であつた。當日は内務大臣、東京代理堀切土木局長を始め多數の官民來會し内閣總理大臣を始め内務、鐵道、農林、宮内各大臣の祝辭が代讀せられ若葉のそよぐ箱根の奥で盛なる箱根復興の第一聲を擧げたのであつた、「箱根の山は天下の嶮、函谷關ものならず……一夫關に當れば萬夫もひらくなし」てふ函嶺の嶮もいよく樂々と自動車で越すことが出来るようになったのである、震災後火の消えたように振はなかつた箱根全山も茲に漸く更生し今後諸般の復興事業の進捗と共に所謂世界の箱根として益々發展することであらう、又「越すに越されぬ大井川」などと相並んで古來我國の幹線道路たる東海道に横つてゐる一大難關もこゝに除かれて交通上資益する所は極めて至大なるものがあるであらう。大正八年創立以來道路改良の急を唱導し殊に東海道の改良計劃を當局に向つて建議した本會は邦家の

爲めに誠に慶祝に堪えず水野會長親ら式典に列席せられる
豫定であつたところが止むなき御用事の爲め都築幹事を特
派して祝辭を呈せしめた。因に神奈川縣知事の式辭及内閣
總理大臣其他各大臣の祝辭は左の如くであつた。(省吾生)

式 辭

箱根國道一號線復舊工事其ノ工ヲ竣ヘ本日茲ニ開通ノ式典ヲ舉
行スルニ當リ多數貴賓各位ノ贊臨ヲ辱フシタルハ本官ノ欣幸トス
ル所ナリ

抑モ本路線ハ帝國ノ幹線ニシテ然モ其地東海道ノ要路ニ當リ山
岳峻險風光明媚ト相俟テ名聲夙ニ天下ニ著シト雖モ其交通ノ連絡
時運ノ進歩ニ伴ハサルヲ遺憾トセルヤ久シ然ルニ曩年振古未曾有
ノ大震ノ爲メ其施設悉ク破壊セラレタリ

爾來國庫補助ノ下ニ工事著々其功ヲ進メ稍々理想ニ近キ其復舊
ヲ見ルニ至ル之レ全ク政府ノ助力ニ由ルニ外ナラスシテ地方ノ爲
洵ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ

翼クハ地方民タル者奮起益々生業ニ勵ミ國富ヲ進メ以テ此ノ惠
澤ニ酬ユル所ナカルヘカラス

聊カ所懐ヲ述ヘテ式辭トス

大正十四年七月十一日

神奈川縣知事正四位勳二等 清野長太郎

祝 辭

一昨年ノ大震災ニ遭ヒ損壞セル箱根國道カ關係者一致ノ努力ニ
ヨリ修理ヲ竣リ茲ニ開通式ヲ舉グルニ至レルハ予ノ最モ欣快トス
ル所ナリ

交通機關ノ整備ハ地方ニ慶福ヲ及ホスハ勿論一國文化ニ裨補ス
ル處亦少ナカラス殊ニ箱根國道ノ如キハ函嶺八里ノ險ヲ拓キ近代
交通機關ノ利用ニ遺憾ナカラシメタルモノ

希クハ今後益改修ニ努メ其用ヲ全カラシメンコトヲ
大正十四年七月十一日

内閣總理大臣 子爵 加藤 高明

祝 辭

一號國道中箱根坂路災害復舊工事其ノ功ヲ竣ヘ茲ニ開通ノ式ヲ
舉グルニ至レルハ邦家ノ爲メ寔ニ欣幸トス

抑々東海道ハ我國重要ノ幹線道路ナルニ拘ラス箱根ノ險坂其ノ
間ニ介シテ古來東西交通上ノ一大難關タリキ加フルニ此一地帶風

光明畑ニシテ温泉豊富ナルカ爲内外ノ訪客極メテ多シト雖道路ノ状態近代交通ノ要求ヲ充ス能ハサリシハ久シク遺憾トスル所ナリキ神奈川静岡兩縣曩ニ之ガ一部ノ改良ヲ企テ工將ニ成ラムトシテ不幸大震災ニ遭ヒ全線ニ亘ル被害頗ル甚大ナリシカ今ヤ巨額ヲ投シテ復舊ノ工事ヲ完成シ舊來ノ面目茲ニ一新セラル惟フニ既ニ完成ヲ告ゲタル富士川及安倍川ノ架橋等ト共ニ之ニ依リテ東海道ノ利用ヲ完フシ交通産業其ノ他ニ及ホス效果極メテ著シキモノアルヲ疑ハス冀クハ今後之ヲ維持管理ニ力ヲ致シ以テ永ヘニ其ノ利用ヲ收メラレムコトヲ一言所懐ヲ述ヘテ祝辭トス

大正十四年七月十一日

内務大臣 若槻禮次郎

祝辭

湯本箱根間國道復舊ノ工竣リ本日ナトシ祝賀ノ盛典ヲ舉行セラ
ルルハ余ノ洵ニ欣快トスル所ナリ

抑モ文化ノ發達ハ交通路線ノ如何ニ係ルコト最モ大ナルモノアリ殊ニ本道ノ如キハ關東關西ノ要路ニシテ本邦國道中又頗ル樞要ノ位置ニアリシニ計ラスモ去歲ノ大震災ニ依リ悉ク災害ヲ被リタルハ直接ノ利便損益實ニ甚大ナルモノアリ之ヲ復舊ハ地方官民ノミ

ナラス遠近都人士ノ翹望シテ已マサリシ所今日此ノ慶報ヲ聞クコトヲ得タルハ之偏ニ地方官民諸賢ノ熱誠ノ然ラシムルトコロダラスムハアラス
本道ハ古來ノ國道ニシテ但ニ交通ノ要路タルノミナラス地ハ天然ノ景趣温泉等ノ名勝ヲ連ネ且函嶺ノ險ヲ以テ往來古今ニ知ラレ幾多文人ノ詞藻ニ謳ハレタル所ダリ冀クハ自今益本道ノ經濟上ニ於ル利便ト相俟ツテ一方之ヲ遊覽旅客ノ便ニ資シ併セテ地方文化ト福祉ノ増進ニ勉メラレムコトヲ聊カ蕪辭ヲ寄セ以テ祝辭トナス

大正十四年七月十一日

鐵道大臣 仙石 貢

祝辭

箱根ノ連峰ハ森林公園トシテ國民保健上重要ノ關係ヲ有スルノミナラス之ヲ經營ノ如何ハ治水並木材生産上極メテ重大ノ關係ヲ有セリ政府ハ深ク此ニ鑑ミル所アリ夙ニ植林ヲ獎勵シテ森林ノ風致ト木材ノ生産ヲ進メ荒廢地ノ復舊其他森林ノ國土保安的施設ヲ進メテ交通ノ安全ト水害ノ豫防ニ努メ周到ナル民間ノ施設ト相俟チテ森林經營ノ理想ノ實現ニ歩武ヲ進メツ、アリシカ一昨年ノ大

震災ハ當地地方ニ甚大ノ災害ヲ與ヘ山地ノ崩壞激甚ニシテ道路並山容ノ破壞名狀スヘカラサルモノアリ數十年ニ亘リテ經營シタル箱根全山ノ施設一朝ニシテ水泡ニ歸セムトスルニ至リタルヲ以テ農林省ニ於テハ直ニ之方復興ノ計畫ヲ立テ同年度ニ於テ約二十萬圓ノ責任支出ヲ斷行シテ震災復舊ノ工事ニ著手シ内務省主管ノ道路其他ノ工事ト聯繫シテ其ノ復興ニ努メツツアルニ際シ茲ニ一號國道ノ復舊ヲ完成シ箱根復興事業ノ大ニ進捗セルヲ見ルハ洵ニ欣快トスル所ニシテ將來政府並民間ノ事業相共ニ進ミテ近ク豫定ノ計畫ヲ完了スルニ至ラハ箱根ノ連峰ハ獨リ其舊態ヲ恢復スルノミナラス進ンテ大ニ其山容ヲ改メ同地方ニ於ケル經濟ノ進展期シテ待ツヘキモノアルヲ信ス聊蕪辭ヲ述ヘテ祝詞トス

太正十四年七月十一日

農林大臣 岡崎 邦 輔

祝 辭

茲ニ箱根國道改修成リ本日ヲシテ盛大ナル開通式ヲ舉行セラルルニ當リ一言祝辭ヲ陳フルノ機會ヲ得タルハ余ノ最モ欣快トスル所ナリ

惟フニ此地ハ古來交通ノ要衝ニ當リ往來頻繁ヲ極メシカ偶々先

年震災ノ厄ヲ蒙リ爾來多額ノ經費ト長期ノ日子トヲ費シテ其復舊ニ努メ茲ニ其ノ開通ヲ見ルニ至リシハ洵ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ希クハ經濟的發達ヲ助長シ地方振興ノ實ヲ舉ケルト共ニ東海ノ名勝地タル函嶺ノ美ヲ天下ニ紹介スルノ便ヲ與ヘ以テ本道ノ効用ヲ著大ナラシメムコトヲ聊カ蕪辭ヲ陳ヘテ祝辭トス

大正十四年七月十一日

宮内大臣 一木 喜徳郎

◎京濱國道神奈川縣管内改築工事竣功式

神奈川縣當局が大正七年度以降三百五十萬圓の巨費を投じて執行中であつた一號國道京濱間六郷橋以南の改築工事は、復興計畫として特に差措いてある鶴見町地内鐵道下過地點より横濱市境までの區間を除く外の道路橋梁共に完成したので、八月三日之が開通式及六郷、鶴見二橋の渡初式を舉行した。

先づ午前九時、潮田町と鶴見町との境鶴見川に架した延長六十間、コンクリート造の鶴見橋の渡初式が執行せられた、型の如く神事ありて後、一石塚、池田兩家の三夫婦の渡

初めがあつて目出度終り、次で、午前十時から、東京神奈川の府縣界多摩川に架した六郷橋の渡初式が初まつた。六郷橋は、東京側から六十呎の鍍桁十七連、二百二十二呎のタイドアーチ型構二連、總延長二百四十五間四分の鐵體、コンクリート鋪裝の立派な姿を灰白色のペンキに化粧して聳立してゐる。渡初の式は型の通りの神事の後田邊、多田兩家の三夫婦の渡初があつてこれ又目出度終り次で、川崎市宮前小學校庭で、開通式を行ふ。午前十一時、市村神奈川縣内務部長の擧式の辭、高田神奈川縣土木課長の工事報告、東京神奈川兩縣知事の式辭、内閣總理大臣(代讀)内務大臣、大藏大臣(代讀)逓信大臣(代讀)道路改良會長、東京神奈川兩府縣の代議士總代、府縣會議長、市町村長總代、關係市町村長の順序で祝辭があり市村神奈川縣内務部長の閉式の辭によつて終り次で、同校大講堂で饗宴があり全く式を閉じたのは午後一時であつた。

當日は内務省側からは若槻内相を首め堀切土木局長、中川東京、安藝横濱の各土木出張所長、牧野土木試験所長其

他又復興局からは直木長官其他多數臨場し、本會からは、水野會長自ら多忙の時間を割いて特に出席せられ其他兩府縣下の官民來賓一千餘名に上り頗る盛會であつた。折良くも當日は地元川崎市、六郷村其の他の祭禮當日であつたので、會場附近は、萬に餘る觀衆に飾り屋臺、山車、茶番の催し物があり、絶えず打上げる煙火に一層の景氣を見せてゐたし會ふ人毎に「ヤアお目出度う……」を交換して新國道開通の喜びを交して居た。此の道路は、京濱兩地を連絡すると言ふ特別の使命があるためでもあるが、これまで、狭い道路で目まぐるしい交通に惱まされてゐた沿道町村民が、今後これによつて何れだけ利便を得るかは、實に圖るべからざるものであらう。今の所京濱間の改築工事中東京府管内は品川町の八ツ山から鈴ヶ森まで新國道により通行が出来るか、それから六郷橋までは、工事中であるためか、特に路面の凹凸も甚だしく、狭い上に砂塵濛々たる状態であるから、今度完成した六郷橋以南の道路が、特に引立つて有難く感じられる。京濱間の國道を此の頃通る人は、道

路の改良の急務を特に深く感得するのであらう。

尙知事告辭及各方面から寄せた祝辭は次の通りである。

式 辭

六郷橋改築其ノ功ヲ竣ヘ本日茲ニ開通ノ式典ヲ舉グルニ當リ多數貴賓ノ贊臨ヲ辱フセルハ寔ニ欣幸トスル所ナリ

抑々本橋ハ帝國ノ幹線道路タル一號國道ニ架設セラレ帝都ト其關門タル大都市ヲ連絡スル帝國主要ノ橋梁ナルニ拘ラス舊態依然トシテ時勢ノ變遷社會進展ノ實狀ニ副ハサルコト久シ特ニ近時治道市邑ノ發展頓ニ加ハリ堅牢壯大ナル架橋ヲ要スルコト益々切ナルモノアリ茲ニ於テ東京神奈川兩府縣ノ協定ニヨリ曩ニ之カ改築ヲ計畫スルヤ政府亦其ノ緊急ナル一大事業タルヲ認メ多額ノ補助金ヲ下附セラル爾來神奈川縣之レカ工事ノ任ニ膺リ銳意刻苦其工程ノ進捗ヲ圖リテ茲ニ堅固雄大ナル新橋ノ成レルヲ見ル惟フニ本橋ノ竣成ハ永久ニ亘リテ京濱間ノ交通ヲ安泰ナラシムルノミナラス延イテ國運ノ進展ニ寄與スル所少ナラサルヘシ今ヤ架橋新ニ成リテ京濱間ニ一大壯觀ヲ加ヘ而テ坦々タル新國道モ亦其貫通近キニアラントス蓋シ今後交通ノ至便ニ由リ沿道市町村ノ發展マコトニ豫測スヘカラサルモノアラン望ムラクハ府縣民カ本橋ノ利用ニ

ヨリテ今後一層文化ノ進展福利ノ増進ヲ計リ以テ長ヘニ其ノ效果ヲ收メラレムコトヲ一言所懷ヲ述ヘテ式辭トナス

大正十四年八月三日

東京府知事從三位勳二等 宇佐美勝夫

神奈川縣知事正四位勳二等 清野長太郎

式 辭

本縣管内京濱國道改修並鶴見橋架設工事其ノ工ヲ竣ヘ本日東京府ト相謀リ六郷橋ノ竣功式ヲ舉グルト同時ニ茲ニ多數貴賓各位ノ貴臨ヲ辱シ其開通ノ式辭ヲ舉行スルヲ得タルハ寔ニ光榮トスル所ナリ

抑々本道路ハ我國交通ノ幹線道路タルノミナラス京濱連絡ノ要衝ニ當リ人馬ノ往來頻繁ヲ極メ往々肩摩轂擊ノ雜沓ヲ來シ世上其ノ交通路トシテ不十分ナルヲ訴フルヤ久シ惟フニ本道ノ改修ハ時運必至ノ要求ニシテ其ノ緊急一日ヲ曠フスヘカラス本縣乃チ此カ直營ノ任務ニ膺リ思テ京濱都市將來ノ發展ニ致シ愛ニ永世不朽ノ計ヲ樹テ同時ニ政府ヨリ巨額ノ補助ヲ仰キ以テ東洋ニ比類稀ナル道路並橋梁ノ完成ヲ見ルニ至ル之レ當ニ本縣民ノ利便ノミナラス内ハ以テ國運ノ發展ニ貢獻シ外ハ以テ世界文化ノ進運ニ寄與スル

モノアルハ言テ俟タサル所ナリ並ニ開通式典ニ臨ミ一言述ヘテ式
辭トナス

大正十四年八月三日

神奈川縣知事正四位勳二等 清野長太郎

祝 辭

一號國道及六郷橋鶴見橋竣工ヲ告ケ本日ナトシ開通式ヲ舉行セ
ラル寔ニ慶賀ノ至リニ堪ヘサルナリ

惟フニ地ハ京濱ノ要路ニ膺リ是レカ完成ハ道般ノ交通文化ニ裨
益スルコトハ勿論國家ノ發展ニ一大勢力ヲ加ヘタルモノト信ス

一言以テ祝辭トス

大正十四年八月三日

内閣總理大臣 子爵 加藤 高明

祝 辭

一號國道中神奈川縣六號橋橫濱市間改築其ノ功ヲ竣ヘ本日之カ
開通ノ式ヲ舉ケラル邦家ノ爲寔ニ欣慶ニ堪ヘサルナリ

由來橫濱ハ我國對外交易ノ要樞ニ膺リ帝都トノ交通亦日ニ滋キ
チ加フルモ之ヲ連絡スル一號國道ハ路幅狭少ニシテ高速度交通機

關ノ要求ニ應スル能ハス憾ミトスル久シカリキ東京府及ヒ神奈川

縣兩當局意チ之カ改築ニ致シ協戮シテ大正七年其ノ業ヲ創ムルヤ
爾來茲ニ八ケ年其ノ間物價勞銀等ノ昂騰ニ亞クニ更ニ關東地方ノ
大震災ヲ以テシ幾多ノ障害相踵テ起リシモ敢テ屈撓スルナク努力

克ク功ヲ積ミ今輒チ神奈川縣内及六郷橋ノ完成ヲ見ル 念フニ東
東府當局ノ施工ニ係ル改築事業ノ完成ト相俟テ京濱兩地間ノ交通

ハ勿論東海道幹線道路トシテ産業經濟ノ開發ニ資補スル所妙カラ
サルヘキハ敢テ言テ俟タス

冀クハ今後益々之カ維持管理ニ努メ以テ長ニ其ノ效果ヲ收メラ
レムコトチ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

大正十四年八月三日

内務大臣 若槻禮次郎

祝 辭

神奈川縣ハ京濱間國道並ニ六郷、鶴見兩橋ノ改修工事ヲ卒リ本
日ナトシテ開通式ヲ舉行セラル

抑モ京濱國道ハ帝都ト其門戸タル橫濱トチ聯結スル重要幹線ニ
シテ近時橫濱ニ於ケル内外物資ノ集散旺盛ナルト共ニ國道ニ依ル

交通モ亦々益々繁劇チ加フルニ至レリ曩ニ本縣ハ國道改修ノ計畫
チ立テ巨費ヲ投シテ起工シ更ニ六郷、鶴見ノ兩橋チモ修造シ技ニ

初メテ車馬ノ交通ヲ安固ニシ且ツ鐵道船舶ノ輸送力ヲ緩和スルヲ
得タリ運輸界ノ爲洵ニ慶賀ノ至リニ堪ヘス

望ムラクハ官民諸子今次改修ノ趣旨ヲ體シ必ス其效果ヲ空シウ
セサランコトヲ聊カ所感ヲ陳ヘテ祝辭トナス

大正十四年八月三日

逓信大臣 安達 謙藏

祝辭

京濱國道ノ改修工事其ノ功ヲ竣ヘ本日開通祝賀ノ盛典ヲ舉行
セラルハ予ノ欣快トスル所ナリ

抑本道路ハ京濱兩大都市ヲ接續スル樞要ノ交通路ニ屬シ經濟上
ノ使命亦重大ナリ隨テ之カ改修ハ多年官民ノ瞻望セシ所ニ係レリ
當局此ニ觀ル所アリ銳意力ヲ修築ノ工程ニ致シ幾多ノ歲月ヲ費シ
巨額ノ資ヲ投シ茲ニ其ノ開通ヲ見ルニ至レリ設計ノ巧緻ハ構造ノ
善美ト相俟テ主要交通路トシテ完璧タルニ庶幾カラシメタルノミ
ナラス六郷鶴見兩橋ノ如キハ殊ニ結構ノ美ヲ具ヘ實ニ本道路ノ一
偉觀タリ兩大都市ノ交通ハ由テ以テ其ノ面目ヲ一新スヘク邦家ノ
爲洵ニ慶賀ニ堪ヘス

顧フニ文物ノ隆替ハ交通機關ノ活用如何ニ繫ル冀クハ官民諸賢

齊シク思テ此ニ致サレ本道路ノ活用宜シキヲ制シ以テ邦家ノ隆運
ニ資セラレムコトヲ聊カ蕪辭ヲ述ヘテ祝辭トナス

大正十四年八月三日

鐵道大臣 仙石 貢

祝辭

本日京濱國道六郷橋橫濱市間ノ改修成リ六郷橋及鶴見橋ノ工事
竣成シ茲ニ其ノ開通式ヲ舉行スルニ至リタルハ洵ニ慶賀ニ堪ヘサ
ル所ナリ

抑々京濱國道ハ夙ニ之カ改修ニ着手シタルモ未タ其ノ工程半ハ
ニモ達セサルニ偶々大正十二年九月關東大震災ノ當時京濱國
及六郷ノ長橋等モ亦大破損ヲ蒙リ爲ニ一時交通杜絶シ甚シキ支障
ヲ生スルニ至リタルヲ以テ速ニ之カ竣工ノ必要ヲ認メ道路ノ修理
並六郷及鶴見兩橋ノ改造ニ着手シ官民ノ協力ニ因リ遂ニ其ノ竣成
ヲ告ク此レ單ニ京濱間ニ於ケル車馬來往ノ交通便利ヲ得ルニ止ラ
ス之ニ依テ以テ沿道ノ市町村モ亦自ラ殷賑シ將來益々發展隆昌ニ
赴ケヤ期シテ待ツヘシ庶幾クハ關係地方ノ各位ニ於テハ一致協力
シ其ノ經濟ノ利用ノ效果ヲ全ウセシメ以テ國力ノ進展ニ貢獻セラ
レムコトヲ聊カ蕪辭ヲ述ヘテ祝辭トス

大正十四年八月三日

大藏大臣 濱口雄幸

祝 辭

東海道ハ我國交通ノ幹線トシテ夙ニ重要ノ地位ヲ占メ就中京濱間ハ帝國ノ首都タル東京ト内外貿易ノ要樞タル横濱港トヲ連絡スル重要ノ使命ヲ有スルニ拘ラス路幅狹隘路面脆弱ニシテ近代交通ノ要求ニ應スル能ハス邦家進運ノ爲メ憾ミトスル實ニ久シカリキ本會創設以來銳意道路改良ノ必要ヲ唱道シ曩ニ東海道改良ノ計畫ヲ樹立シテ特ニ此ノ區間ノ改良ノ急務ナルヲ建議スルヤ神奈縣及東京府當局ハ克ク其ノ議ヲ容レ相共ニ協力シテ大正七年本路線ノ改良ニ着手シ今ヤ六郷橋横濱市間ノ改築其ノ功ヲ竣エ資ヲ費スコト三百四十七萬圓年ヲ閱スルコト七星霜克ク此大工事ヲ完成ス邦家ノ爲メ寔ニ欣快ニ堪ヘサルナリ

念フニ東京府所管ノ國道其ノ完成ヲ見ムカ京濱間ノ交通ハ方ニ其ノ面目ヲ一新シテ交通運輸上ニ貢獻スルノ愈々著大ナルモノアルハキテ信ス

希クハ更ニ横濱市内 幹線ノ改良ヲ達成セシメ以テ本事業所期ノ效果カ完フセラレムコトヲ茲ニ日本ノ式典ニ際シ衷心祝意ヲ表シ

併せて今後ノ努力ヲ祈ル

大正十四年八月三日

道路改良會長 水野鍊太郎

◎全國道府縣會議長會議の道路問題

本年三月四日開會した全國道府縣會議長會議に於て議決した道路問題は、國道に係る道路橋梁費は全額國庫の負擔とされたこと、道府縣道の認定に關しては道府縣會の答申意見を採用されたいと言ふことであつて、内務大臣に建議した、前者に就ては何時も議論に爲る點であるが、國家の財政が許さないの理想を實現することが出来ない、後者は議會の意見を尊重するのは勿論であるが縣會議長の邸宅に達するやうな随分如何かはしき路線が尠くないので此弊風が改まらない以上は監督を嚴重にするより外はないであらう。

◎都市道路協議會の召集

来る二十五日から三日間内務省土木局で東京、大阪、京都、名古屋、神戸の五大都市の道路行政擔任者を召集して會議を開き事務の取扱や技術上の打合をすることに決定した、此種會議は大正十一年十二月初會議を開いて其後引續き開會すること爲つて居たのであるが、各種の事情に妨げられて遂に今度二回の會議を開くのである、議案は随分多いそうで目下土木局で調製中である。

◎第五回萬國道路會議開催

明年九月伊國「ミラノ」市にて第五回萬國道路會議を開催せらるゝことゝ爲つたが、之に附議せらるゝ問題は左の通りである。

第一部 構造と維持

一 混凝土道路——道路を混凝土を以て築造する場合に於ける材料使用上の進歩に關する實情

二 「ピツミナス」及アスファルト道路使用材料例へば結合劑及混凝土材等の必要なる性質

三 コールターピツユメン及「アスファルト」の試験方法に關する標準

第二部 交通と行政

一 交通調査——各國に共通すべき交通量の單位

二 交通上より見たる都市の發達と其の計畫——都市交通取締上の進歩に關する實情

三 自動車交通としての特種道路——如何なる場合之を必要とするや。築造者として如何なる機關を最適とするや。財政計畫。公の基金にての助成方法。道路税通行及利用に關する規定。交通の安全及敏速を圖るため自動車道と他の一般道路との連絡及交叉方法。

x x x